

大分県社保協・大分県労連・大分県医労連より 県に要請行動！！



厚生労働省による「地域医療構想」推進のための公立・公的病院の「再編・統合」に抗議し、地域医療の拡充を求める要請

3月12日（木）、大分県医労連は日野智子委員長を筆頭に、大分県労働組合総連合、大分県社保協等の団体とともに県に対して要請行動を行った。

2019年に「再編・統合病院」としてリストアップされた424施設の公表は、名指しされた各都道府県で大きな混乱をきたした。データ自体も2017年であり、すでに改編された病院などが含まれており混乱に拍車をかけた状態です。

大分県でも3病院がリストアップされ、その後1病院はデータの間違いということで削除されていますが、これも甚だ問題です。

厚労省のデータのみ、机上での議論では、地域の姿がはっきり見えていとは言えません。当日参加した看護師からは「母は、玖珠に住んでいるが、豊肥地区の竹田医師会病院が対象になれば近距離で通える病院はなくなる。」「高齢者にとって自家用車の運転は心配、そうなれば公共交通機関の利用となるが、1日ばかり。」「そうでなくても歯科や眼科はない。」と切実な例が出されました。

地域の実情をしっかりとらえ、そこで暮らす住民が医療難民とならないようにしていくことこそが県が建てていく医療構想ではないでしょうか。

また、今回、大分県医師確保計画も策定されており、医師の偏在指標が地域医療計画を推し進めていくにあたって、検討が加えられようとしている点を指摘し、大分県においても医師確保のために大学医学部の定員数を確保すると同時に、地域医療の充実のためにも今後増員に向けて検討してほしいと要請しました。

また、今回の新型コロナウイルスに関連して、感染症病床をしっかりと整備していくことが必要だとの意見が出されました。効率性・生産性だけでは地域医療構想は成り立ちません。公的病院が担う役割をしっかりと堅持し住民が安心して暮らせる地域づくりのために是非県から国へ声を上げていただきたい。

1時間という短い時間ではありましたが、参加者の思いをしっかりと届けることのできた時間であったと思います。

